

2017年度特定研究奨励金 報告書

報告者所属・氏名

所属	文学部美学美術史学科	氏名	宮崎 法子
----	------------	----	-------

奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

本奨励金によって、2017年5月には北京故宮で開催された「四僧画家展」、天津博物館の「清初六大家書画展」の見学調査を行い、特に黄山派の画家の作品を多く調査することが出来た。また、その際、故宮博物院の古書画部の研究主任と会い情報交換を行い、10月の「青緑山水画展」の国際シンポジウムへの招聘を受けることになった。その後、9月に、中国文人画家の主な活動地域であり、また画題となった景勝地が点在する江南地方（上海、蘇州、杭州、湖州）の現地調査と、それぞれの土地の博物館で関連作品調査を行ない、あわせて天津、北京の博物館における作品調査も行った。この現地調査では、交通不便な土地の調査を実現することが出来、特に元代の主要な文人画家の画題となった地の景観について、多くの知見を得ることになった。それらの現地調査と作品調査の成果である写真資料は、同行した院生に整理を依頼し、また博士後期課程の小西麻美と非常勤講師の福岡さち子両氏は、仕事の都合でその調査に同行できなかったため、別の日程での調査を依頼し、情報を共有確認した。

これら一連の調査により、一般に倣古主義を原理とするとされている中国文人山水画において、その成立期である元代初期から、倣古主義を標榜した明末の董其昌においても、予想以上に実景に基づく描写が、作画において重要な要素であることを把握することが出来た。

また、北京故宮での国際シンポジウムで発表した古代的な青緑山水画の、宋代における復興と、元代初期の文人たちの復古主義に基づく倣古的作画の関連に着目出来たことで、その後の文人山水画の展開に関する新たな視点を獲得することも出来たことも、本研究の成果である。